

ギリシャ問題進展期待から過度の悲観論が後退し、ショートカバーが広がる

2011年6月22日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

ギリシャ問題進展期待からリスク回避の動きが和らぎ、株高・商品先物高・ユーロ高

マーケットの懸案材料となっていたギリシャ問題で、新内閣が信任投票で可決されて財政再建が進むとの観測が先行し、リスク回避姿勢を緩和する動きが市場全体に広がり、株高、商品先物高、金利上昇の流れとなりました。為替市場ではユーロを買い戻す動きが優勢でユーロ円は115円台後半まで上昇しました。

欧州株式市場はギリシャの信任投票可決との思惑から軒並み大幅反発となりました。特にギリシャがデフォルト回避に向けて前進との見方から、同国の株価指数は前日比+3.7%の大幅高となりました。

米国株式市場はNYダウ、S&P500は4日続伸となりました。欧州市場同様、ギリシャ問題進展期待から景気敏感株中心に幅広い銘柄に買いが広がったほか、商品先物高も資源関連株の追い風となりました。5月の米中古住宅販売件数は前月比▲3.8%の481万戸と6ヶ月ぶりの水準へと低下しましたが、予想(▲5.0%の480万戸)を上回ったことから、これを悲観視する見方は限定的でした。業種別では、生活必需品は4日ぶりに小幅反落となりましたが、それ以外のセクターは軒並み上昇し、中でもハイテク、金融、一般消費財、エネルギーなどが上昇に寄与しました。

リスク回避姿勢緩和の流れを受け継ぎ、日本株も先物主導で大幅続伸

日本時間早朝にギリシャの信任投票が大方の予想通り可決されました。これを受けてパンドレウ首相は財政緊縮法案の議会での可決を目指すこととなります。海外市場ではギリシャへ支援実現の可能性が高まったとして好感する流れとなっており、日経平均株価も寄りで9,500円台を回復して始まりました。大型の景気敏感株主導で幅広い銘柄が上昇となりました。寄り付き後も堅調地合いは継続し、日経225先物は9,600円ちょうどに乗せる場面もありました。MSCIが市場分類の定例見直しにおいて、先進国への引き上げが予想されていた韓国と台湾を「新興市場」に据え置いたことも日本株市場にとって追い風でした。市場では韓国と台湾が先進国扱いとなった場合、MSCIワールド・インデックス(先進国24カ国)に両国の銘柄が入り、日本市場からは大規模な資金流出を懸念する声もあっただけに、ひとまず安心感が広がりました。ただし、9,600円以上の水準では日経225先物に厚めの売り板が並び、買い一巡後は9,600円の手前で小動きの展開が続きました。しかし、後場に入り、上値のメドとなっていた9,600円を先物主導で上抜けるとショートカバーの動きが加速し、日経平均株価の上げ幅は200円近くにまで拡大しました。海外年金から実需の買い観測もありましたが、先物主導による買い戻しの色彩も強く、現物の売買は盛り上がりには欠けましたが、裁定買いに伴い値上がり銘柄数は9割近くにまで増加。結局、日経平均株価は前日比+169円高の9,629円と大幅続伸で引けました。本日の先物の主な買い手としてCTAのほか、欧州系証券経由による買いも目立ちました。

今晚、FOMCの結果発表とバーナンキFRB議長の会見が予定されていますが、QE2の終了は市場ではほぼ織り込まれており、市場の関心はFRBのバランスシート縮小や利上げ開始時期へ移っています。

以上